

平成29年度 教育課程編成の基本方針

中期目標 ～誇れる広中へ～ 『進んで学習』『進んであいさつ』『進んで部活』

1 平成29年度重点目標

『自分の考えを持ち、表現する力を持った子どもの育成』

- 重点1 自分の考えを伝える力を持った子どもの育成（表現力）
- 重点2 社会で通用するあいさつができる子どもの育成(社会力)
- 重点3 進んで体を鍛える子どもの育成(鍛錬力)

2 重点目標達成のための方針

【進んで学習】確かな学力の向上の面から

重点1 自分の考えを持ち、伝える力を持った子どもの育成

- 基礎基本の確実な定着（わかる授業づくり）
「主体的」「対話的」で「深い学び」がある授業づくり
- 学びに向かう学級集団づくりを推進する。
お互いに認め合い、共に高め合って伸びる教育（他者との学び他者からの学び）
- 家庭学習の充実を図るため、教科学習と連携した家庭学習の充実を図る
（家庭との連携）

【進んであいさつ】豊かな心の育成の面から

重点2 社会で通用するあいさつができる子どもの育成（まず自分から）

- 体験活動と道徳教育を関連させた「心の教育」の推進
「礼儀」（2－1）「自主・自立」（1－3）「自他の尊重」（2－5）
を重点として指導し、道徳的実践力の育成をする。
- 自立した子どもを育成するためのキャリア教育の充実を図る。
系統的な体験活動の実施と体験したことを「伝える」活動の充実を図る。
（学んだことと社会を繋ぐ学習と体験を振り返る活動）
（活動の目的を明確にし、何を学び、何が分かり・できるようにするか）
- 繋がる人間関係の醸成と支持的風土を持った学級づくりをおこなう。
自主的・主体的な学習集団づくりの展開(生徒会、体育大会、合唱コンクール等)
自他の人権を守ろうとする実践力を養う人権学習の実施

【進んで部活】健やかな体の育成

重点3 進んで体を鍛える子どもの育成

- 体力向上 100%を目指す
体育の授業における体力の向上
部活動への積極的な参加
- 不登校生徒への対応と長期欠席者を出さない取組
- 残量の減少をめざす
食育による食に対する意識の向上

広川中学校における学びに向かう学習集団づくりとは

1 生徒の成長とは

日々の活動を通して、学級や班の目標に向かって生徒が変容していき、更に人による影響を与えられる行動ができるようになることである。(集団的自尊感情の育成)

2 学習集団とは何か(つながり、高まりあう教室づくり)

- (1) 人間的な関わりを持つ、お互いに高め合う、これらを目指す活動ができる仲間
- (2) 学校という大集団よりも効果的な小集団として、学級ごとに班をつくって一人一人の能力を高めようとする
- (3) 特に学級では、人間関係の成長をはかり、より良い人間関係を築いていくことを学ぶと同時に一人一人が成長すること。

(つなぎのボンドとは、学級での出来事、学級新聞、学校行事、授業=究極のボンド)

- (4) 一人のわがままによって、学習が止まることや、成立しない等、他人の権利を侵害してはならない集団の中でのルール、及び、遅刻、無断欠席、提出物、あいさつや返事をする、等の社会性を身に付けることが必要である。社会に通用する人間形成を目指す。
- (5) 身近な人々【保護者、地域の人、先生、生徒】のものの見方や考え方を知ることにより、自分のものの見方や考え方を深め、幅を広げていく。

3 学習集団(班)は何のためにあるのか(学びに向かう班づくり)

- (1) 学級より更に小集団にすることで、より効果的に一人一人の生徒の能力を高め成長を図る。
- (2) 班活動を通して、より良い人間関係を築き一人一人が成長することをねらっている。
- (3) 班活動は手段であり、目指すものは「一人で学ぶ」力を持った生徒を育てることであり、個が埋没してしまったり、班が隠れみのになってしまったりしてはいけない。(わからないという生徒が、分かったと言えるようにかかわれる班)

4 最後に

我々教師は、目の前にいる生徒が社会に出ても、命を大切にし、日々発生するであろう様々な問題(課題)を解決する力をつけなければならない。

そのために

- ① 生徒に「学力」をつける
- ② 生徒と教師、生徒同士の「人間関係」をつくる
- ③ 生徒の「豊かな心」を育てる

「質の高い学級集団が授業の質を規定する」(園田雅治)